

R元年度 指定管理者導入施設 管理運営評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒ふるさとミュージアム				
所在地	生駒市山崎町11番7号				
指定管理者名	株式会社 地域文化財研究所	指定期間	開始日	平成 30年 4月 1日	
利用料金制適用区分	利用料金制		終了日	令和 5年 3月 31日	
選定方法	公募	評価実施年	指定期間 5年のうち 2年目		
設置目的	生駒の歴史を標榜し、市民のみなさんが過去・現在の生駒を思い、未来の都市像を予測して頂くための施設の設定				
主な実施事業等	常設展示、企画展示、特別展示、体験型普及啓発事業、講座、講演会、資料の収集・保存・調査・研究・教育普及等				

2 利用実績

利用区分等	単位	予定(計画・目標)	利用実績	対前年度比	増減の理由等
来館者数 大人	人	-	5,828	-387	
来館者数 子ども	人	-	1,706	-1,378	
来館者数 合計	人	10,000人以上	7,534	-1,765	
館外事業参加者数	人	1,000人以上	540	-463	
多目的室利用	件	350件以上	278	-74	

3 事業収支

		事業計画	事業報告(実績)	(参考)前年度実績
収入計	A	28,842,000	28,428,180	28,776,790
指定管理料		27,583,000	27,583,000	27,637,000
利用料金収入	C	135,000	153,800	158,350
自主事業収入		620,000	399,530	635,280
その他(受講料・観覧料等)		504,000	291,850	346,160
支出計	B	28,792,000	27,843,596	28,107,693
指定事業費		28,222,000	27,479,749	27,581,367
うち人件費	D	11,900,000	11,313,751	11,636,255
うち再委託料	E	3,430,000	3,402,512	3,397,800
自主事業費		570,000	363,847	526,326
事業収支	A-B	50,000	584,584	669,097
利用料金比率	C/A	0.5%	0.5%	0.6%
人件費比率	D/B	41.3%	40.6%	41.4%
再委託費比率	E/B	11.9%	12.2%	12.1%
補足説明(必要に応じて記入)				

※人件費(D)及び再委託料(E)は主な支出内訳のため、DとEの合計額が指定事業費にはなりません。

4 利用者の意見把握状況

利用者の意見把握の実施の有無		実施方法	(利用者アンケート) 意見箱の設置・その他()
実施結果	意見内容等		対応実績等
	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの結果を活用した展示(市民の協力を得た展示等) 昔の遊び道具や土器パズルを増やしてほしい 古代の生駒の歴史について知りたい 		<ul style="list-style-type: none"> 企画展「さよなら平成」展では、市民から生駒市内の平成時代の写真を募集し、資料提供の協力を受け、展示を行った。 けん玉やパタパタ板返しなど昔ながらの遊び道具を追加した。

5 管理運営状況評価

施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	「生駒ふるさとミュージアムの管理に関する基本協定書」、「生駒ふるさとミュージアム管理運営基本仕様書」、「生駒ふるさとミュージアム管理業務特記仕様書」に基づき、事業を実施している。また、事業報告において評価検証している。 収蔵資料の保存管理については、3月に作業体験室で市所蔵文書を防虫駆除のため燻蒸作業を行った。
市の評価	基本協定書及び管理運営基本仕様書に沿った業務を遂行されている。計画の変更について、一部で事後報告になっていた事案があり、今後は事前に市への連絡・協議により適切な対応をしていただきたい。
市民の平等な利用の確保（平等な利用への配慮、公平で適切な利用者の決定等）	
指定管理者による自己評価	当館HPやSNS(Twitter、Instagram、Facebook)、広報いこまち等の広報ツールを最大限活用し、イベントや講座の年齢層に対応した周知を行った。夏休み前には勾玉・土笛体験のチラシを市内小学校全児童に配布し、来館促進に繋がった。予約の利便性を高めるため、多目的室貸出の電子申請への対応を引き続き実施し、昨年度より利用件数が若干増加した。
市の評価	幅広い年齢層にご利用いただける施設運営に取り組み、利用者の平等・公平性に配慮した業務遂行がなされている。貸室業務については、さらに利用促進PRをお願いしたい。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	来館者には特別展・企画展観覧者、講演会受講者からの様々な意見・要望を取り入れるため、各種アンケートを行っている。来館者アンケートの結果は、昨年度と比較するとリピーターが10%増えた。展示内容は「大変満足」「満足」合わせて87%、スタッフの対応「大変良い」「良い」合わせて79%の評価を頂いた。特別展・企画展については企画展の「満足」の評価が71%だったのに対し、特別展の「満足」が53%の評価にとどまったのは、テーマ内容が先の企画展と似通っていたことも要因と考えられるが、アンケートのご意見を今後の参考としたい。レファレンス業務については、市民から毎月数件の質問があり、その都度概要の説明や関連資料の紹介、必要に応じて資料のコピーを提供するなどの対応を行った。
市の評価	特別展や企画展はミュージアムの目玉の事業でもあり、来館者の満足度の確認や意見を直接収集できる機会である。今後の参考とするためにも、来館者アンケートの回収率の向上や設問の設定にさらなる工夫をお願いしたい。レファレンス対応等は丁寧にさせていただいており、引き続き、来館者に生駒市の歴史や文化についての知見を深めていただけるサポートができるよう、日々の調査研究にも力を入れていただきたい。
経費の縮減等の効果（効率性）	
経費の縮減等（経費縮減の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	作業体験室や多目的室等の空調のこまめな調整、使用者のいない部屋やトイレの節電、温水機器の節電モードなどの日々の省エネ活動のほか、裏紙の再利用や古ファイルの再利用等、光熱水費・消耗品費の削減を積極的に行っている。 市の指導を受けた事業費予算の考古資料台帳等の事業費削減については、考古資料台帳の予算を削減し、より充実した展示内容となるよう常設展示・特別展・企画展に関わる経費を増額した。
市の評価	日々の施設運営にあたっては、事務室や館内においてこまめな節減をされ、環境負荷への軽減も含め、積極的な取組をされている。事業費においては、考古資料の台帳整理にかかる経費削減とともに、事業の優先順位を市と協議しながら、費用対効果を意識した事業展開をお願いしたい。
収入の増加（収入増加の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	企画事業の特別展・企画展に関わる収入について、昨年度よりも約2倍の収入増加であった。特別展・企画展は生駒に焦点を当てた内容で展示資料も多かったため、市民の関心も高く観覧者の増加に繋がったと考える。勾玉・土笛体験、イベント等の自主事業は下半期の新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を大きく受け、目標結果が振るわなかった。 小学校の長期休暇は勾玉・土笛体験で多くの来館者が見込めるため、夏休みが始まる前に市内全小学校にチラシを配布するなど積極的に宣伝を行った。お正月イベントについてもチラシ配布を行い、来館者の確保に繋がった。
市の評価	チラシやポスターなどの工夫や多様な媒体による広報活動をされ、来館者の増加につながっている。新規の来館者獲得とともに、引き続きリピーターを増やしていただくことを期待している。

適正な施設の管理運営（適正性）

施設の管理運営の状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）

指定管理者による自己評価

市の指導を受け、スタッフ個々に意見を聞き、各人の更なるスキルアップの為に特別展、企画展の本質や図録の作成手順、イラストレーターを活用方法などの研修を随時行うように改めた。窓口対応や来館者対応等の接客の質の向上のためのスタッフの接客研修も継続的に行うことが必要と考える。また、職員の継続雇用については個々とのヒアリング、グループミーティング等、意見交換も行い、よりミュージアムに適した人材の確保と体制作りにも努めた。

広報活動については、前述のとおり当館HP・SNSなどの電子媒体、広報いこまちや奈良新聞など（企画展・特別展の記事を記載）の紙媒体のほか、奈良テレビなどのメディア媒体など様々なツールで行うことができた。環境行動の取組状況については、「環境行動取組データ」を日々作成し、3か月ごとに提出している。地域との連携等については、引き続き、ボランティアの方と事業を行うとともに、図書館とのコラボイベントや市主催のIKOMAサマーセミナーなどへの参加を積極的に行った。

市の評価

本市の歴史文化の発信拠点としての役割を担う施設として、ミュージアムの業務を支えるスタッフの専門性や個性を活かした企画や、調査研究の時間の確保に努めていただき、一層の成果をあげてほしい。ボランティアの方との良好な関係を維持しながら、市民との協働の視点を持った新たな事業にも積極的に取り組んでいただきたい。

自主事業の取組（施設の有効活用による市民サービスの向上への効果等）

指定管理者による自己評価

勾玉体験やお正月イベントも恒例になり、参加者も年々増加、定着している。新しいイベントを行い新規の来館者を増やす一方で、継続的な講座・自主事業を実施し、リピーターを増やせる事業を展開している。また、博物館の社会的役割の一つである職場体験や博物館実習の受け入れを行った。

市の評価

チラシやポスターの工夫や多様な媒体による広報活動をされ、来館者の増加につながっている。歴史入門講座や勾玉体験など、非常に人気で根強いファンが多いことも評価できる点である。職場体験や博物館実習の積極的な受け入れにも貢献されている。

安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）

指定管理者による自己評価

「生駒市個人情報保護条例」を遵守している。また、事故発生時の緊急連絡体制・事案については「危機管理マニュアル」に基づき、館内で周知している。年一回の消防訓練を行っている。

市の評価

個人情報の管理は、「生駒市個人情報保護条例」を遵守しておられる。引き続き細心の注意を払っていただきたい。また、有事の際にスタッフのだれもが自ら行動できるように、マニュアルの周知を徹底し、常に危機管理意識をもって施設の管理運営を行っていただきたい。

サービスの安定的な提供（安定性）

事業収支（自主事業を含む）の状況（事業収支の妥当性、安定的な事業継続等）

指定管理者による自己評価

継続的な経費削減、事業内容に応じた参加費の設定等により、黒字の収支となった。企画事業の特別展・企画展展示収入については前回は上回った。今後も施設本来の目的達成に向け、安定的な運営と質の向上を図りながら、来館者から高い満足度をえられるよう努めたい。

市の評価

企画事業の来館者の増加にともない収入も増額したことは評価できる一方、アンケート結果では来館者からの満足度は十分とはいえない面もあり、リピーターの増加にもつながるような事業実施に取り組んでいただきたい。事業費においては、全体のバランスを見直し、考古資料の台帳整理にかかる経費削減とともに、展示や調査研究により一層経費を充当するなど、効率的かつ効果的な予算執行をお願いしたい。

6 指定管理者の財務の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
資産	27,995,016	37,388,855	37,751,523
流動資産	25,334,560	33,228,456	33,366,665
固定資産	2,660,456	4,160,399	4,384,858
負債	19,396,405	27,308,391	30,934,033
流動負債	14,600,405	23,904,391	10,269,033
固定負債	4,796,000	3,404,000	20,665,000
純資産	8,598,611	10,080,464	6,817,490
資本金	3,000,000	3,000,000	3,000,000
売上高	93,821,026	113,257,176	96,840,096
経常利益	4,310,704	2,347,275	-3,125,676

7 指定管理者の経営状況（財務・資産関係指標）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
自己資本比率 純資産/資産×100	30.7%	27.0%	18.1%
負債比率 (流動負債+固定負債)/純資産×100	225.6%	270.9%	453.7%
固定比率 固定資産/純資産×100	30.9%	41.3%	64.3%
流動比率 流動資産/流動負債×100	173.5%	139.0%	324.9%
固定長期適合率 固定資産/(純資産+固定負債)×100	19.9%	30.9%	16.0%
総資産回転率 売上高/資産×100	335.1%	302.9%	256.5%
総資産経常利益率 経常利益/資産×100	15.4%	6.3%	-8.3%

8 総合評価等（今後の業務改善に向けた考え方）

指定管理者による自己評価
<p>平成30年度モニタリングの指導を受け、考古資料台帳作成等の作業の効率化、事業費・展示関係予算も含め見直しを行った。</p> <p>また、継続した取組としてはミュージアムが生駒の歴史・文化を発信していく場所として、各学芸員がノウハウを継続して伝えていけるように、ミュージアムに係わる資料収集、調査研究など必要不可欠な事業を行った。</p> <p>平成30年度からの新規事業の一つである「市民の協力を得た展示の開催」について、展示資料の寄贈や提供を呼びかけ、夏季企画展「さよなら平成」展では、平成時代の家電製品や昔の生駒の風景写真を展示した。市制施行50周年に向けた特別展「生駒市誕生前夜」では、生駒町時代の歴史を振り返るとともに、市民にとって懐かしさや親しみを感じる資料の展示を行った。今後の展示においても来館者に生駒の歴史文化をわかりやすく説明し、郷土愛を育み、ミュージアムが親しみ愛される場所となるよう努めていきたい。</p>
市の評価
<p>昨年度は、本市の歴史を振り返り、地域に焦点をあてた企画事業により、懐かしさや親しみを感じてもらえる内容で多くの方が来場され、ミュージアムの認知度を高めるきっかけとなった。今後も、幅広い年齢層の市民が本市の歴史に関心を持ち、郷土愛を育める企画や運営とともに、ニーズに合った情報やサービスを提供し、ミュージアムのファンを増やす努力をお願いしたい。また、考古資料の展示など、これまでの台帳整理の成果を発表していただくとともに、全体として新たな発想の事業展開が必要と考える。そのためにも、スタッフが専門性やアイデアを活かして活躍できるミュージアムとなることを期待する。</p>